社会保障Ⅰ　6月28日（水）　5限目16：20～17：50

【社会保険の概念と範囲】年金保険、医療保険、介護保険と被用者の社会

第４章社会保険・社会扶助・民間保険の関係　第１節　保険と扶助の考え方

●リアクションペーパー＃11

学科名　　　　　　　　　学年　　　　学生番号　　　　　　　氏名

この回の講義の感想・この講義でわかったことなど、該当するものをチェックして下さい。（複数回答可能）。

1保険と扶助の考え方について

□これまで関心がなかった。

□関心はあったがよく知らなかった。

□前から関心があり、よく知っていた。

□盛り沢山でよく理解できなかった。

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

２. 保険と扶助の概念整理

□保険（insurance)：リスクを分散する＋備える＋予防する。民間保険（private insurance）、掛け捨てが原則。生命保険、損害保険など。

□扶助（assistance)：助ける＋救済する。政府が用意するもの。民間企業の残業手当などは扶助とは呼ばない。

□社会保険：保険方式を用いた社会保障制度、日本では年金保険、医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険の５つ。

□社会扶助：扶助方式（税）を用いた社会保障制度、資力調査ありは公的扶助＝生活保護、所得調査（所得制限）ありは、社会扶助＝児童手当、児童扶養手当、無拠出年金（最低保障年金）、失業扶助（求職者給付）、住宅扶助（住宅確保給付金）などがある。

３．保険の理論・保険の限界

□保険はリスク（危険）を分散する仕組み

□損失の可能性：病気、障害、老化、失業、労働災害、結婚・出産・子どもの進学などはめでたいが支出やケアなどの負担が発生する。

□損失が発生する回数や可能性（蓋然性・確率）：乳がんに掛かる確率、胃がんに掛かる確率、生命保険⇒簡易生命表（性・年齢別死亡確率）

□保険の原則：①リスクに規則性があること。②収支が保たれること（収支相等の原則）、③負担と給付が対照であること（給付反対給付均等の原則）

□保険はハイリスクグループを制限した方が儲かるが、福祉的な観点からはハイリスクの人ほど保険に加入してリスクに備えてほしい。

□逆選択の可能性：ハイリスクな人がリスク（負の情報）を隠して加入⇒給付の多発⇒保険料の上昇⇒低リスク者の加入が減少する、悪循環。

□情報の非対称性（本人情報の秘匿vs,保険者側の統計・専門情報）

□モラルハザード問題（フランスの例：高い失業率に慣れてしまう）